



題字 小沢信三郎 会長

航 跡

-30-

早稲田ヨットクラブ

平成6年3月発行

発行者・事務局長 白石裕之
編集・広報室 米田晴二
石田晋也

理事長と事務局長にきく この1年とこれからの1年

……執行部を引き受けていただいて一年たちました この一年は？……

土肥理事長

あつというまの一年でした。毎月の理事会にご出席いただいている方々、各地で活躍していらっしゃるOBの皆さんのご協力に感謝の言葉あるのみです。この機会にあらためてお礼申し上げます。全日本インカレのおこなわれた蒲郡の地元の皆さんにもたいへんお世話になりました。ありがとうございました。学生たちも鎌田監督の指導のもと両クラス出場をはたし今後に希望を繋げることができました。

さらに力になってやるてだてを、OBの皆さんのご協力をえて実現したいと考えます。学生ヨット部を指導されている監督、コーチの方達の経済的負担を少しでも軽減するため、援助基金を創設することにしました。

皆さんのご理解とご支援をお願い申し上げます。

白石事務局長

卒業してから10年あまり、海には出ましたがクラブとは全くといって良いくらい繋がりを持たずに居ました。永楽倶楽部も記憶のかななでした。いざお手伝いを始めて見て、こんなに多くのOBの皆さんが、こんなに学生ヨットに強い関心をもっておられ、また他の大学との交

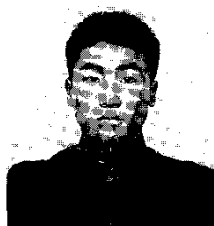
流に熱意を持っておられるのを知って驚いたり感動したりしました。ご指名いただく前には全く想像もしていませんでした。

……これからのクラブ運営は？

土肥 早稲田ヨットを日本ヨット界で最も影響力ある存在にしていきたい…と思っています。今まで現役を指導していただいた皆さん、OB倶楽部を運営してきていただいた皆さん、お陰様で実に立派な若い人達が育っております。これからのクラブの運営に若手OB諸氏の力を是非引き出していきたくし、学生諸君とクラブとの接触の機会もふやしたいと思えます。現在理事会で、また各地で活躍されている皆さんと若い力が一緒になったら、いろいろな方面で早稲田ヨットの影響力が高まることでしょう。理事のみならずと力をあわせて尽力致します。ご理解ご支援を切にお願いします。

白石 私も若いOB諸氏の活発な参加の受け手としてのクラブ運営を形にしていきたいと思えます。皆様のかかわぬご援助をお願いします。

13 94年度を 振り返って



主将 島山 知己

今年は、非常に若いチームでした。上期5名以下、下級生29名の総勢34名の部員構成で、今年一年は常勝早稲田の土台を築きたいという心構えでスタートを切った。

改革へのきっかけとして、何事にも全員で取り掛かり、下級生の負担を軽減させるよう勤めました。自主性を持たせようとしたのですが、協調性が欠けていたように思われます。また、春先に蒲郡への遠征も行いましたが、これは強風下の操船技術の向上に大変役立ちました。

しかし、一年を振り返れば、インカレも勝てず、早慶戦も敗戦という結果に終わってしまったのです。今年の敗因は、チームの若さにあったと感じます。精神面の弱さ、集中力の不足、自分に対する甘さ・妥協といった事が結果に現れましたが、これを克服すれば勝利が見えた

のではないかと思います。

来年は、今までの航跡を振り返り、「強い早稲田」への一步を記してほしいと思えます。

最後になりましたが、諸先輩方には一年間にわたり多大なるご指導ご支援を賜り誠にありがとうございました。紙面をお借りして深くお礼申し上げます。

ヨット部の成績：93年度

	スナイプ	470	総合	参考
関東インカレ	(春)12位	3位	5位	日・明・東・関・早・慶
六大戦	(春)4位	2位	3位	明・東・早・法・慶・立
五大戦	(秋)4位	3位	4位	日・明・慶・早・中
六大戦	(秋)3位	1位	2位	慶・早・明・東・法・立
関東インカレ	(秋)7位	3位	3位	日・慶・早・関・明・法
全日本インカレ	(秋)9位	8位	7位	福岡・日・同・京・慶・早慶戦
同志社戦		負	負	負 立命・早

……以上のごとくで、決勝にはでたが勝ちにつながっていない。島山主将が個選をとり、また各レースでトップを引くなど目覚ましかったが、それをいれて上記の結果であった。

四大学OBレース優勝

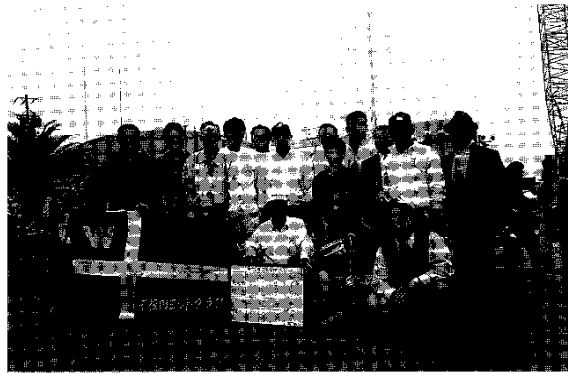
93・10・17 蒲郡

今年で22回目、今回は早稲田が世話役でした。ここ蒲郡はアメリカズ・カップ、ニッポン・チャレンジのベース・キャンプで、また練習艇J24を使わせていただくことができました。山崎達光OB、武村洋一OBのご好意・ご協力で気持ちの良いレースができ、関学・同志社・慶応の諸君も大喜び。地元OB村瀬さん、山内さんら10人の皆さん本当にありがとう。

レースは3回戦。微風・快晴・万事OB向き。乗り手にはどこにも元オリンピック選手がいるとゆう、申し分のない筋書きでした。

	一回戦	二回戦	三回戦	得点
三田	2	1	4	6-3/4
関学	3	4	1	7-3/4
同志社	4	2	2	8
早稲田	1	3	3	6-3/4

ラストを取らなかった早稲田が優勝しました。レース



運営は武村、土肥、山内、喜多内の諸氏で万全。

恒例の前夜祭、ご想像のとうり。ご寄付をいただいた皆様、次のとうり。

サッポロ・ビールを沢山、河村さん。巴工業輸入パーボン・ウイスキーを沢山、舟岡さん。日本酒・地酒を加藤さん、鈴木さん、名古屋のみなさんから。エビセンを沢山、浜田さん、Tシャツなど賞品沢山を山内さんから。皆さん本当にありがとう。厚く御礼申し上げます。

平成6年は同志社鯨会のお世話になります。琵琶湖です。是非多数のご参加を。毎年楽しい会ですぞ。

(参加者) 堀江、石井、村瀬、米田、安藤、浜田、舟岡夫婦、武村、大河原、土肥、山内、赤松、大嶋、白石、喜多内、梅原、杉野、兎玉、星野、……以上

(濱田記)

お伊勢の海(芝生)

からコンニチワ

若松徳生 (S39)

生まれ故郷の伊勢に引っ込んですでに20年、海を目の前にして毎日常らしながらヨットのことも忘れがち。ヨット部のみなさんとも時々訪ねてくれる先輩、同輩あるいは送られてくる便りでしか中央の動向もわからない昨今でした。(申し訳なくおもっています。)

それが、ある日突然『お父さん、私ヨットやりたい』高校生になったばかりの娘がそんなことを言い出したのです。『よし、まかせておけ』やおら腰をあげてみたものの20数年という時間はヨット界のすべてを変えてしまっていたのです。

本当に驚きました。何しろ義装ひとつ出来ないのですから……。セーリングやタクティスの基本はなんとか教えられますがほかのことは一体どこがどうなっているのやら。まさに浦島太郎になっていました。なんと情けない、そこでつついついグリーンの芝生へと足が向いてしまうのです。

30年前カナダへいったときの相棒、小嶋朋好君もそんな一人です。彼のハンデが6、私が8、ヨットからの転向組でよく伊勢までバッグを担いできていました。『一

度ヨット部OB同志でコンペやろうよ』そんな話しをしていましたが、パールレースで鳥羽にこられた並木先輩や、さらに後輩の大矢木くんが加わり実現しました。ごくうちで、ひっそりと…そんなつもりでしたが、九州の冬至君、四国の後藤君、千葉、浜田両先輩はじめ東京勢、名古屋の若手をふくめて18人にふくれあがってしまいました。

ゴルフの誘いでしたがさすがヨット部の集まりですね。前夜の懇親会ではヨットの話が中心です。結局ゴルフはどうでもよいのです。

当日そのことは十分証明されました。みんなボールの行方は『ボールに聞いてよ』の感じ、それぞれがきわめて個性派のゴルフでく自然に逆らわない。まさにヨットマンらしいコンペでありました。

東京から約4時間、遠くて近い距離です。近辺までお越しの節は是非お立ちよりください。

(この原稿は昨年いただいたものです。このゴルフは一昨年でした。)

ところで昨年、カナダへ14フッターで河原氏(平成1)らが遠征した時、カナダのオールドヨットマンが“わしーだわしーだ”(注、ワセダ・ワセダのこと)と懐かしがっていたそうです。30年前スナイプ西半球選手権で活躍した若松、小嶋、千葉の3君が昼夜をわかつた活躍したことを証明するものではありませんか?



94年 合宿所開き

平成6年2月11日。快晴・曇量ゼロ、微風。10時。三戸浜神社。早稲田ヨット部恒例の合宿開き及び安全祈願祭。相模湾は穏やかだし、富士山は雪をすっぽりかぶって空容を見せていた。神様は寒そうだったが、神主の祝詞には長年の積み重ねで工夫の後が多く微笑ましい。

稲龍対策検討中

昨年夏の実技合宿中、稲龍の後部デッキ破損。老朽によるもの。その後油壺でしずかに眠っている。岡本造船所の技師に健康診断してもらったり、補修見積もりしてもらったり、対策検討中である。フネのこともさることながら、実技の在り方、クラブとして的大型艇の活用方法を固める方が先決であるので杉井OB(S48)中心で意見集約中。大学側も現状を承知である。

どのように大型艇を運営するのか。

どのような艇をもつべきか。現在の稲龍はどうすべきか。プロジェクトチームの結論を理事会にもちあげ方針決定をいそぐ方面。

関西・早稲田ヨット新年会

94年・2・4 大坂・そねざき

本部で新しい名簿ができて関西に30人近いOBが在任されていることが判明。連絡を取り合い、鈴木融、吉田秀、両幹事のご努力で新年会。

林(S21)、吉田(S36)、鈴木(S36)、小沢(S37)安藤(S38)、志智(S39)、斑日寿明(S46)、浜田全紀(S48)、宮本(S48)、出張中の米田晴合流。

西宮で2年間利用していたクルーザが、事情あり使用できなくなった。林さんご紹介の琵琶湖のフネや、三井物産コット部長斑日氏ご紹介ご好意にのるかなどなど。瀬戸内海でのクルージングは独特の風情あり。ご活躍を期待したい。(由良OB、父上ご不幸で当日欠席)

小沢会長、石井講師、土肥理事長、鎌田監督以下、若手OB河原、藤原、星野、阿部、高野瀬、星野、岸井、永田、学生25名人(学院性も含む)が参加した。

今年の現役メンバーは上期11人、3期7人、2期5人と今のところ23人です。

去年は、年間練習日150日以上。区切りがなくて納会の意味が分からない学生がいたというくらい。

昔からの仕来りめで2月11日、合宿所を開く。旧暦の正月でもある。

小島合宿所で春のような陽射しをあびながら、祝い酒をくみかわす。

各OBからは学生諸君への期待、激励がのべられ、学生諸君は決意を語った。

*まず、日大を倒そう。さらに全日本を。

*時間はない。1つ分1秒も無駄にできない。とゆう発言もあった。

本年の部訓。「闘志」

岡本造船所 創業100年

—大変お世話になりました!!—



昔からお世話になっている岡本造船所が一世紀になりました。イギリス人クックが開いてその同じ場所でつづけているのです。変貌をかさねた横浜港のなかで貴重なことです。

93・11・26・お祝いの式典と祝宴が開かれた。地元は勿論全国からヨット関係者が大勢祝いに集まった。早稲田から小沢ご夫婦、永元さん、堀江さん、田窪ご大妻、の大先輩ほか下記諸氏が参加した。戦前、戦後の大変だったころのこと、稲龍を建造した頃のこと、おやじさん岡本酒造(みき)さんのこと、毎年毎年借金をかさねてフネジャーはそれを転がすのが仕事だったこと、それをまとめて値切りにいって岡本さんのほうが目を白黒させて結局そのときは値切ってしまったこと………話題つきませんでした。

なお、最近では千葉右一OBが“空蟬”を建造し4年間で太平洋を巡ってきました。昨秋ご夫婦で元気で帰国したところ。各地からここの熊沢さんと連絡を取りながら船をいたわりつづけての、無事帰国でした。

上記、長老のほか次の出席があつた。

金沢、米田、足枝、松本、遊作、角岡、千葉、杉井、大原なお、岡本造船所は現在、横浜、江ノ島、淡路島の3か所で仕事しています。

早稲田ヨットクラブ 若手の活躍！

熟年世代の活躍華やかかなりし我が早稲田ヨットクラブですが、各クラス、フリートに於いて若手が着実に活躍し、それぞれが楽しいヨットライフを送っている事をご紹介します。

まずは470、今や日本を代表するセイラー、田中君(平3)、児玉君(平4)組(豊田自動織機製作所)は、'93年全日本470は14位だったものの、オリンピックウィークは優勝。昨年5月から10月まではヨーロッパ各地のビッグレースを転戦し、今年もドイツの国際レースを6、7月に3つも控え、その後フィンランドでのワールドというスケジュールです。皆で応援しましょう！

スナイプクラス'90国体成年男子2位の矢口、小川君組(どちらも平2)(三和銀行)は最近あまり名前を聞きませんが、関東スナイプで10番ちょつとの所にはいるようです。実業団スナイプでは、長谷川君(平1)から諏訪君(平3)、柳川君(平4)、東野君(平5)と続く東京海上火災が'92、'93と全日本実業団5位と健闘。

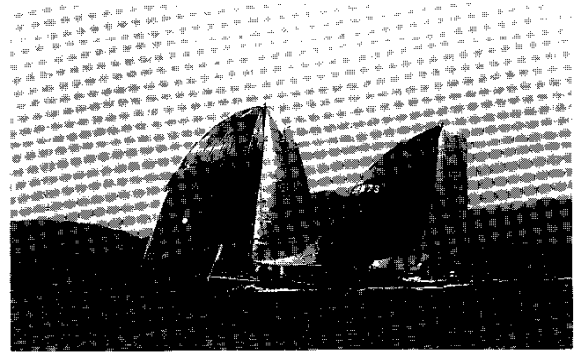
実業団といえのシーホース級でも、東京海上東野君は同志社OB堤(弟)と組んで全日本選手権個戦2位と上出来。他にもシーホース級ではさくら銀行の鈴木先輩(昭63)は'92江ノ島フリートMVP、住友商事槐島君(平3)が'92年8大商社戦MVP、と活躍しています。

J24級では、油壺京急マリーナを拠にする月光Jr.で舵を取る松下先輩(昭62)、クルーには石田君(平4)が乗っています。又、リクルートチームでは久保田先輩(昭62)がスキッパーとして活躍しています。蒲郡では、蒲郡最強の艇と言われるブーメラン、山内先輩の下で杉野君(平3)が頑張っています。

最近江ノ島周辺でカッ飛んでいる14フッターでは、川原/坂部組(共に平1)と藤原/市川組(共に平3)が活躍しています。'91イギリス'93カナダでの世界選手権に出場しています(世界の壁は厚い様ですが)。

2艇が遭難してしまい惨事となった'92グアムレース、僅か35ftの船であの荒海を乗り切り見事修正にて優勝を勝ち取ったHALFTIMEには牧君(平1)が乗っていました。彼も会社の仲間に分心配されたそうです。

こうしてザッと見渡しただけでもそれぞれのクラスでみな活躍しているものです。江ノ島やあぶずのハー



14フッター J-78・川原、坂部組 J-73・藤原、市川組

バーでは毎週のように皆で顔をあわせています。これからもそれぞれのクラスで早稲田ヨットクラブの面々がこれをリードする存在であること、後輩諸君がそれを継承してくれることを願ってやみません。

(川原記)

夢の島マリーナ情報

.....東京・江東区/新木場の近く.....

東京都立で2年前オープンしたここは、場所の便利さからOB諸氏の新しい基地になっている。

昨年進水した早稲丸(28フィート)は岩本・杉山・加藤・木村・町田・大原義・市村・地曳・瀬川9人オーナーでなかなかの稼働状況です。東京湾の一番奥、ディズニールランド沖から浦安方面の水域で帆走を楽しんでいる。ここは“げっこう”も“だばはせ”もバースをもっており油壺からやってくる。このマリーナは650隻収容できる日本最大規模である。

またこの近くには同じく東京都立のヨット訓練所(今時どうしてこんな名前したのかな?)があります。大先輩、堀江さん、田窪さんが先生です。春から夏にかけてはとてもいそがしい。最近の受講生は素晴らしいヨットウエアーを着てくる。先生が一番みすばらしいんだ……と田窪先輩の苦笑い。多分乙姫様を、年取った浦島太郎が教えているような光景なのだろうか。若い教育ずきの諸君の応援を期待します。

『航跡』次号には早稲田各派クルーザの自己PRをしてもらいたいと存じます。800字以内で原稿をおよせください。

なお上記記事の早稲丸は田が抜けているのではない。最初からタヌキなので誤解なきよう。

空蟬4年ぶりに帰港

千葉右一夫婦の太平洋渡り島の旅は93年6月小笠原からの北上で最終コースとなり東京湾にはいり横浜の岡本造船所にかえってきた。89年6月から丸4年だった。途中に便りを2度ご紹介した。また早稲田学報12月号に千葉氏の記事が出たので、参照されたい。お一人ともたいへん元気。横浜にはランドマークタワーなどとう大きなビルができたりして自然人千葉君にはご迷惑なことであろう。日本はいまきつい病いの最中にある。4年の経験から得られたさまざまなものを、帆友に伝えていただきたい。



'93ワールド(カナダ)へ向けて出発